

南部の魅力！～絶滅危機から完全復活へ～

研究背景

本校がある青森県南部町では、「南部太ねぎ」という伝統野菜が栽培されている。しかし、栽培が難しいことから安定供給が難しく、一時は生産農家がたった1軒にまで減るなど、絶滅の危機に陥っていた。本校のプロジェクト活動により一度は生産者が10軒にまで増えたものの、高齢化、農業従事者の減少、食生活の変化により、現在は存続が難しくなっている。更に、南部太ねぎとして販売できる太さに育つのはせいぜい30%程度のため、70%にも及ぶ太く育たないねぎの利用方法についても課題が残っている。「生きた文化財」とも言える伝統野菜を守るため、生産・販売については「実力プロジェクト」として、太く育たない南部太ねぎの活用方法については「味力プロジェクト」として、PR活動については「美力プロジェクト」として、関係機関と連携しながら南部太ねぎを守り、地域活性化に繋がりたいと考えている。



「南部太ねぎ」の特徴

- ・草丈は1m前後
- ・白い部分の直径が太い（約5cm超もある）
- ・白い部分の約7割が太く育たない
- ・葉がやわらかく、分岐部分が広がりやすい
- ・毎年自家採種が必要
- ・栄養成分が高い
- ・糖質が高く、火を通すと甘みが増す



* 食品栄養成分の比較

項目	エネルギー (kcal)	水分 (%)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	糖質 (g)	食物繊維 (g)	食塩 (g)	ナトリウム (mg)
南部太	49	86.1	2.0	0.3	8.2	2.8	0.6	1.1
一般品種	28	90.6	0.5	0.1	5.0	2.2	0.4	1.0

目的

1. 南部太ねぎの特徴と課題を探る
2. 南部太ねぎの魅力を最大限に活用

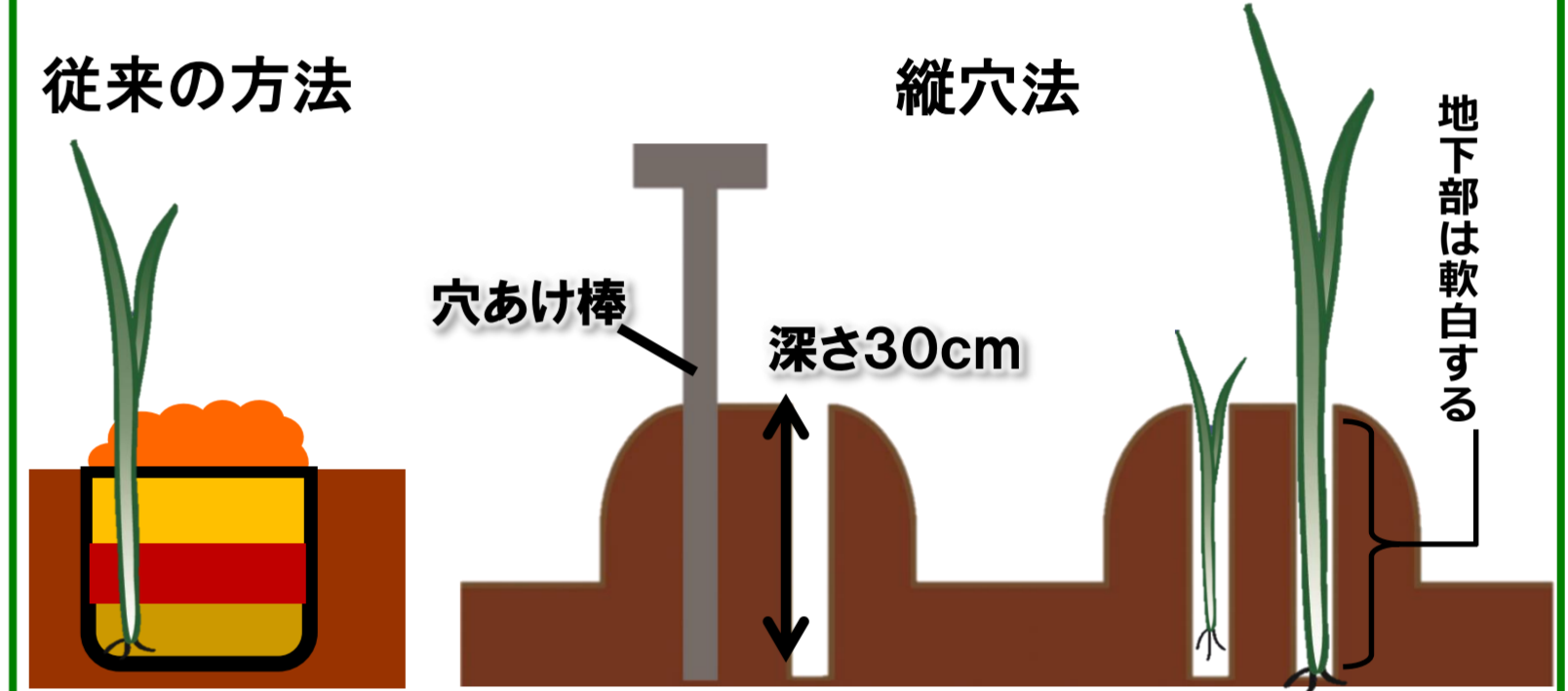


研究概要

実施期間：2023年 3月～ 5月 発芽・育苗試験
 2023年 5月～12月 栽培試験
 実施場所：名久井農業高校 第3農場
 栽培手順：3月29日 播種(200穴セル、育苗箱)
 3月29日～5月31日 育苗管理(育苗ハウス)
 5月31日 定植(縦穴法) (畝幅80cm 株間10cm 深さ10cm)
 5月31日～12月19日 栽培管理(露地栽培、ビニルハウス栽培)
 12月19日 収穫

定植方法 「縦穴法」

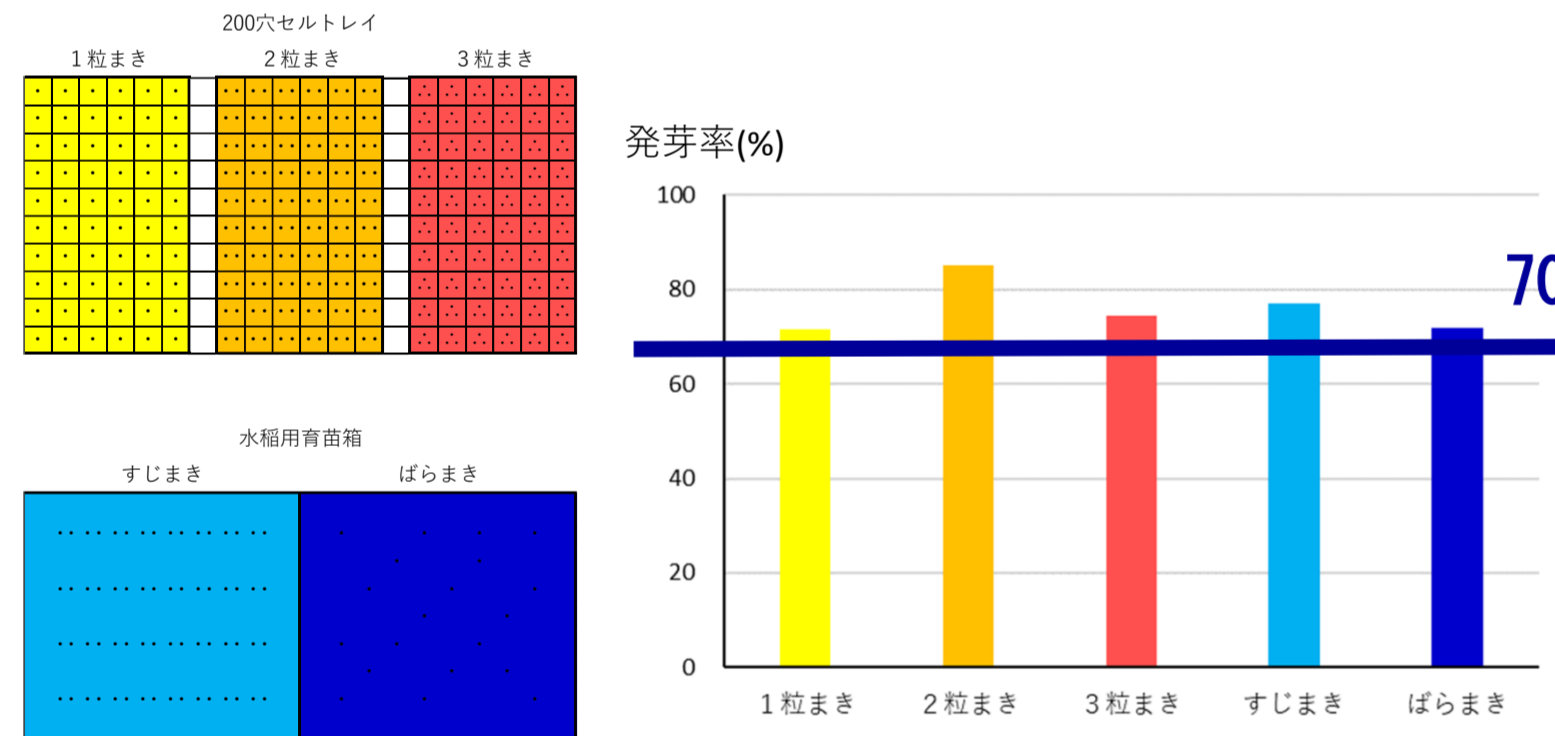
手で土寄せをしない栽培方法



実力プロジェクト～生産・栽培について～

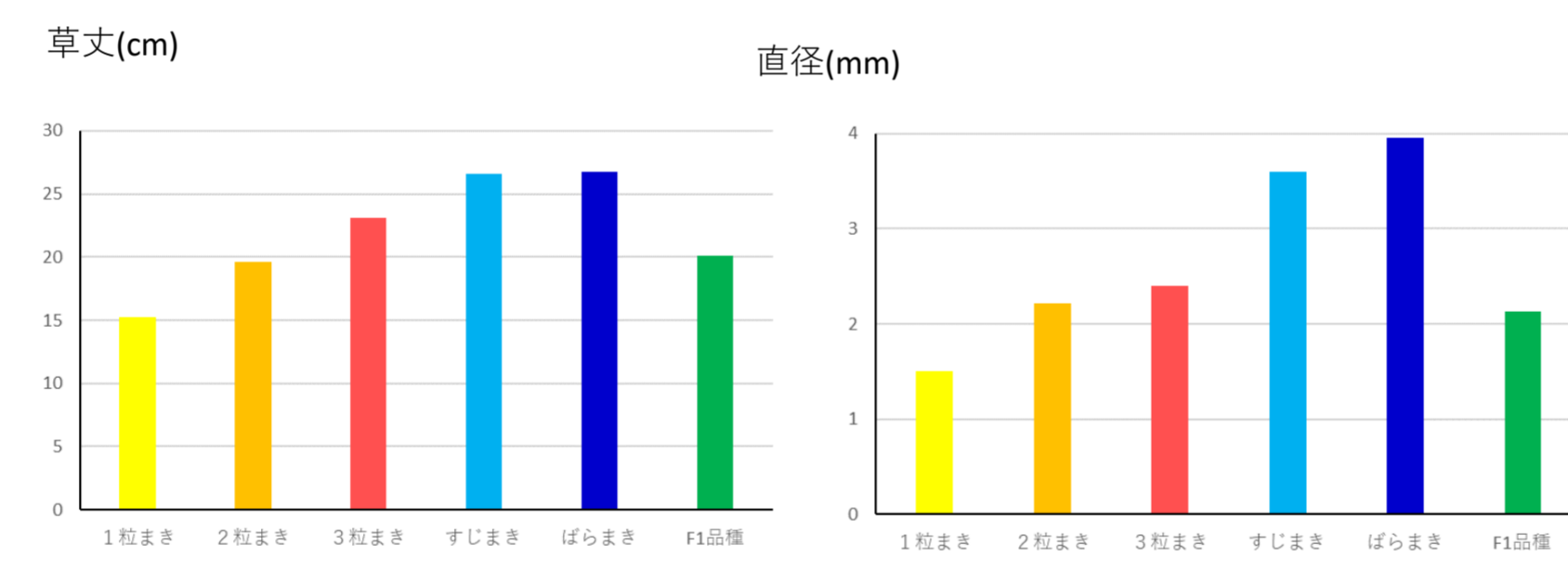
結果1 播種方法別の発芽率

5つの試験区(1粒まき、2粒まき、3粒まき、すじまき、ばらまき)を設けた。どの試験区も発芽率が70%以上で、2粒まき区が最も高かった。



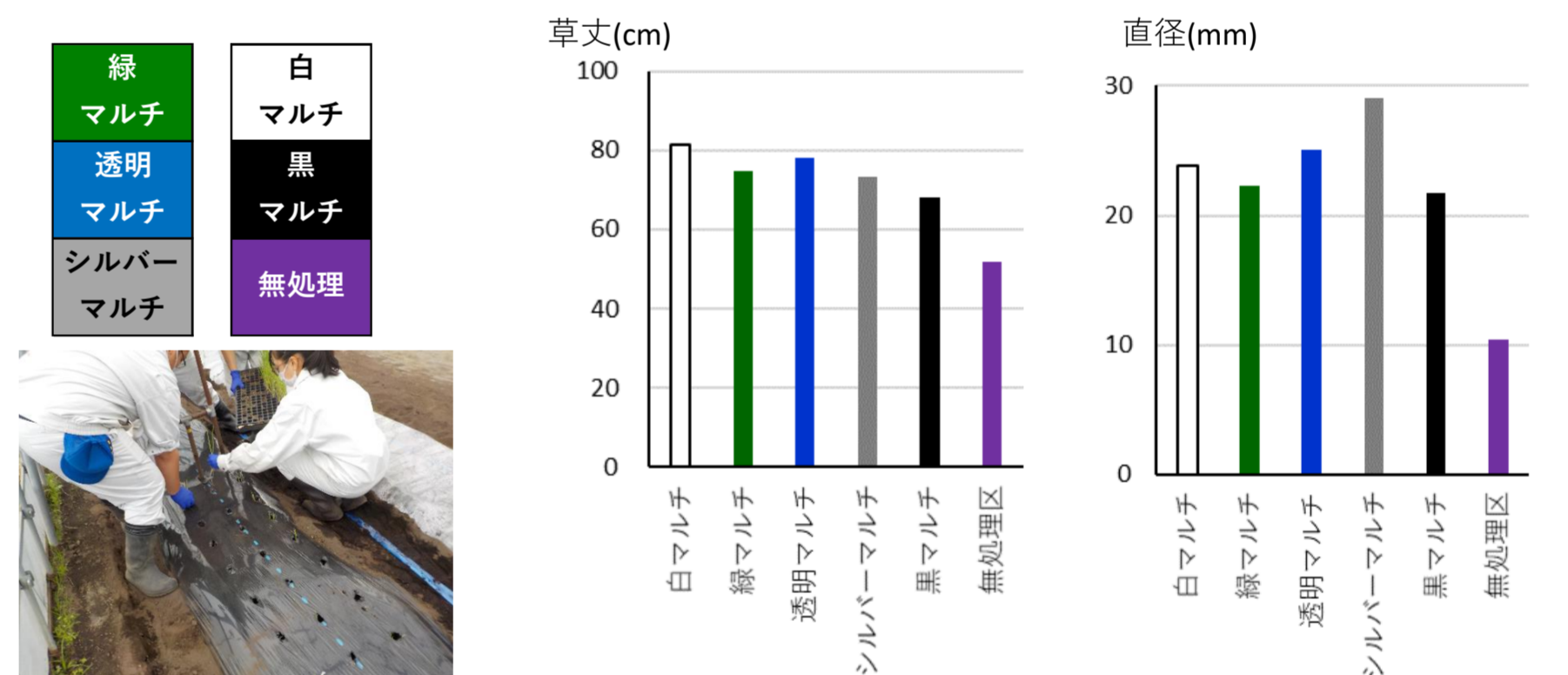
結果2 播種方法別の育苗

5つの試験区(1粒まき、2粒まき、3粒まき、すじまき、ばらまき)を育苗後、育苗ハウス内で育苗した。すじまき区とばらまき区で草丈が長く、直径も太くなった。



結果3 ビニルハウス栽培での被覆資材別成長

ビニルハウス内に幅80cmのうねをたて、マルチフィルムを被覆し、色別に試験区(白、緑、透明、シルバー、黒、被覆なしの無処理区)を設けた。マルチフィルムで被覆した方が草丈が長く、直径も太くなった。色別では大きな違いはなかったが、シルバーマルチ区で直径が最も太くなった。



味力プロジェクト～太く育たない南部太ねぎを活用し、通年食べられるように～

- ・南部太ねぎの糖質は一般の1.6倍
- ・火を通すと甘い。
- ・他の栄養成分も優れている
- ・10月下旬からの収穫時期以外には食べられない
- ・約7割が太く育たない

太く育たない南部太ねぎの活用と通年食べられるように南部太ねぎの加工品づくりを検討



美力プロジェクト～青森県内外問わずPR活動～

- ・アンテナショップや無人販売の実施
- ・本校HPからの情報発信
- ・本校来場者へ南部太ねぎの見学や試食
- ・「こどもはっち」でポスター展示
- ・「ジュニア農芸化学会2024」でのポスター発表
- ・新聞

・YouTube動画

- ・「青少年のための科学の祭典2023」八戸大会で紹介
- ・「あおりマルシェ」などへの参加
- ・岩手県や台湾の高校生に南部太ねぎの紹介
- ・テレビ番組「ハレのちあした」に出演
- ・生産農家さんやNPO法人南部の達人村の方と一緒に「全国ネギサミット」へ出店・販売・PR活動



「伝統野菜」から「伝承野菜」へ

実際に栽培することや聞き取り調査から伝統野菜について特徴を確認し、現在抱えている課題を、3つの魅力(実力、味力、美力)の観点から少しでも改善することができ、地域の活性化へ貢献する一歩を踏み出すことができた。

今後の課題として、これらの伝統野菜の魅力地域活性の素材としてもっと活用し、地域に途絶えることなく「伝統野菜」から「伝承野菜」になれるような研究活動を今後も展開していきたいと考えている。地域の人たちをはじめ様々な人々と協働することにより、伝統野菜を未来につなぐことで地域の未来を作っていくことにつながる、そう信じて活動を続けていきたいと考えている。



青森県立名久井農業高等学校 野菜研究班は、生物生産科に所属する2年生13名、3年生9名で構成されている。主に伝統野菜や野菜についての栽培から流通、消費に関する研究を行っている。